

サクランボが最盛期を迎えた山形の田舎に行つてきました。そこで、叔父から畑を引き継いだ従兄弟が会社勤めをしながらサクランボを育てています。真赤に熟してたわわに実つて、可愛らしいサクランボは宝石のよう光り輝いていました。一年間丹精こめて世話をしたサクランボは、わずか二週間ほどで終わってしまいます。

周りの葉だけでは後を継いでくれる人がいなくて、木を切り倒してしまったり、実がなくなつたまま放置しているところもあるなか、叔父が大事に育てたサクランボをより美味しくなるようになると、一生懸命に世話をしている従兄弟を尊敬しました。

また、母に頼まれ親戚の家を何件か訪ねましたが、親戚を大事にして母の娘と一緒に過ごすことで歓迎してくれました。子供の頃は当たり前のように夏休みにはいつも山形へ行つていま

した。一ヶ月以上も私達兄弟3人を預つてくれていた叔父のおおらかさに今更ながら頭が下がる思いです。本当にありがとうございました。

「来年もまた来いよ。」との従兄弟の言葉に送られて帰京しました。久しぶりの山形訪問は家族、親戚の縁を改めて感じさせていたいた旅になりました。

●田舎の親戚にありがとう



●「ナクワ」よ、ありがとう

(目黒区/K・N)

長いこと共同住宅に住んでいる。猫の額ほどの庭の向い側には、葛が這つた堀があり、その堀を跨ぐように隣家の桜の木が、こちらの庭にまで大きく枝を伸ばしている。表通りから奥へ入つて、いるため、桜の木も、よくぞここまで成長したものだと見上げる日々である。

入居したころは、まだ若木だった桜の木も、よくぞここまで成長した。春の花見時は世俗の賑わいをさせて静かに満開の桜を愛することが出来ます。この桜も今は濃緑の葉が繁茂し、木陰を作ってくれている。そして盛夏を迎えることになると、褐色のふき声が響き、暑さに拍車をかけることだろう。

そして、その蟬たちの声が止み、秋風が吹き始めるころになると何故か桜木がそわそわし、濃緑の衣から赤や黄色を散りばめた派手な衣装へと衣更えをするのだ。そんなに着飾つて何処へ行く気だろ？

する

